本愛

発　行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL（052）461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL（0743）62-0378
編集責任　広報部

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

教会長夫妻のたすけ一条の実践を

教祖140年祭 教会長夫妻おたすけ推進のつどい 1月13日開催

教祖140年祭に向かう年祭活動の２年目となる来年、たすけ一条の歩みを一層進める上から、「教会長夫妻おたすけ推進のつどい」が各直属教会で開催される。本愛大教会では、１月13日の春季大祭祭典後に開催される。

諭達に「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである」とお示しいただいているように、年祭活動において、にをいがけ、おたすけを実践していくことは、とても重要なこと。教祖のたすけ一条のひながたを辿り、教会がたすけの道場として相応しい姿に近づくためにも、教会長夫妻が率先しておたすけに勤しむことで、教会につながるようぼく信者にも、その姿が映っていく。

教会の中心となる教会長夫妻がよく話し合い、手をたずさえて、おたすけに励むことが、年祭活動を推進する原動力となる。

年祭活動１年目の歩みを振り返り、教会長夫妻が教会の先頭に立って、たすけ一条の道を熱心に歩むことができるようにとの思いから、本部たすけ委員会の提唱により、教会長とその配偶者を対象として、各直属教会で開催されるのが、今回の「教会長夫妻おたすけ推進のつどい」。

大教会では、来年１月13日の春季大祭祭典後に、この「つどい」と教会長年頭連絡会が行われる。

この機会に、教会長や教会長夫人として、年祭活動２年目をどう歩んでいけばよいのか、改めて考え、取り組んでいきたい。各教会で年祭活動に歩みだすとき定めた目標、その実現に向けて、さらにその歩みを通して年祭活動の実をお見せいただけるように、そして何より教祖にお喜びいただけるように「つどい」を通して、あらためて心を定めさせていただこう。

メイクアップ講座を開催

大教会では11月の月次祭終了後、メイクアップ講座を華洲館３階で開催した。

講師は東京・表参道で美容室を経営し、多数の著名人のヘアメイクも担当する美容師の佐藤統二郎氏（那美岐大教会所属、写真左）。

当日は教会長夫人らをはじめ、女子青年など多くの女性がプロのメイク技術を教わった。

12月のこよみ

入社祭　1日　午前10時
よふき会例会　2日　午前10時
月次祭　13日　午前10時
青年会例会　13日　午前10時
布教実修所　14日　午前10時
むつみ会例会　16日　午前10時
女子青年例会　17日　午前10時
こども食堂ＭＯＧＵ　17日　午後5時
婦人会例会　20日　午前10時
修養科志願者面接　23日　午後1時（於・大教会）
本部月次祭　26日　午前9時
大祓式　31日　夕づとめ後

現代に生かす「用木の道」

文・安藤吉人

前回の収録時に風邪を引いてしまい、体と頭が思うように動かないという経験を久しぶりにしました。かしもの・かりものの理の尊さを改めて感じる中で「不足とは何か？」と私自身感じたので、今回はこのことについて考えてみたいと思います。

不足思えば皆不足になる

天理教事典には「不足」とは「身上のさわり（病・怪我）などで肉体的に思うようにならない状態を表す」との意味のほかに、「心の不足、つまり満足の反対の意を表す」と書かれています。

つまり不足の心とは、喜びのない心のことであって、陽気ぐらしができないばかりか、親神様の守護を受ける理を曇らせて、周囲にも不足を呼び起こすとされます。

「なんでこんなときに風邪を引いてしまうんだ」といったように、私自身も不足の心を起こすことがよくありますが、おさしづの中には、この心遣いを厳しく戒めておられるお言葉が数多くあります。

「不足思えば皆不足になるで。たんのうより受け取る事出けん。誠あればこそ、たんのうの心定まる」（明治23年5月13日）

「不自由無き処に、身に不自由というはいんねん。心に不足思わずして、世上の処も聞き分け、内々たんのうの理を治め」明治23年6月3日）

このように見てみると、不足の心の反対は「たんのう」であると分かります。

この点、先人の先生方はどういう状況で、どのように心を治めてきたのでしょうか。たとえば加見兵四郎・東海大教会初代会長はこのように書き記しておられます。

「人と約束したときは、先方が約束を守らんでもこちらは守るのである。先方が守らんといって不足するは埃である」（『教祖余話』）

相手の勝手な都合や理不尽を押し付けられたとき、つい不足をしてしまいます。みなさんは相手が約束を守らなかったとき、どのように思いますか？　私を含め、なかなか不足に思わないことは難しいことです。それでも先人たちはそうした時こそ、たんのうの心で通ってこられたのです。

「形でつとめても、心でつとめねば、つとめにならん」と書き残しておられる先生もおられます（沢田又太郎『さとしさとり』より）。

また、高井猶吉先生は晩年、不足心に関連して、かつて教祖をやりこめようとやってきた人たちが「皆教祖のなんとも云えぬ神々しい、しかも親の様な慈悲の姿に、その心はいづこへか去ってしまうのである」と語っておられます。

たとえば腹が立ったときでも、「教祖ならどうなさるだろう」と思えば、不足をたんのうに変えることができるかもしれません。

年祭活動は、ほんの少しでも教祖に近づこうとする歩みです。こうした小さなことから、成人の歩みを進めたいと思います。

年末年始の行事

◆おぢば◆

別席　12月28日から元旦まで休み。2日から通常通り。

元旦祭　1月1日午前5時から本部神殿にて執行。

お節会　1月5日より7日までの3日間、いずれも午前10時から午後1時まで。

◆大教会◆

餅つきひのきしん
28日　午前9時

年末清掃・迎春準備
29日　午前10時

大祓式
31日　夕づとめ後

立教187年元旦祭
1日　午前5時

教会長夫妻おたすけ推進のつどい
教会長年頭連絡会
13日　大祭終了後

教理随想

言わん言えんの理を探る

【第108回】

来年は創立百十周年の年
人だすけに一層の飛躍を

教会で創立何周年の記念祭が行われるのはなぜでしょうか。

「それは教会規則で決められているから…」。

いえ、そうではありません。

教会長や教会の所在地が変わるときには奉告祭を行う決まりがありますが、記念祭は行わなくても何の問題もないのです。

ならば、なぜ行うのか。それはその教会に所属するようぼくが、親神様のお心に近づく成人を目指して自発的に記念祭の旬を定め、おぢばへ願い出て、存命の教祖からお許しをいただく。

そして期間を仕切って集中的に教えの実践に力を入れることで、真にたすかる道へと導いていただく。記念祭の意味を簡単に言えばこういうことになります。

来年に本愛大教会が迎えるのは創立百十周年。それは十年を十度くり返した百年を超えて、さらなる飛躍を目指す年限の重さですから、力の入れ方も自ずと大きくなるでしょうし、頂戴するご守護も、今までにないくらい大きなご守護となるに違いありません。

年が明ければいよいよ百十周年の年です。六月二十三日に迎える記念祭に焦点を合わせ、どうすれば心の成人が果たせるかを自発的に、また具体的に考えていく努力が大切になりますが、ここで拠り所となるのが教祖のひながたです。

教祖は親神様の思召のまに、五十年に及ぶひながたの道を歩み続けられました。その道中は、誰からも相手にされないばかりか、十数度にわたる投獄や、激しい迫害の連続でした。

その中をたった一人で教祖は歩み抜かれました。人間を創造された親神様なら、そこまで苛酷な道を教祖に通らせなくとも、神として人間の前に君臨すれば良さそうなものを、あえて苦難の道中を教祖が歩まれたのは、後に続く私たちがどんな中でも喜びを忘れずに通れるように、との親心からです。その思召は今も全く変わりはありません。

■身上事情の元を探る

おふでさきに、

しんぢつにたすけ一ぢよの心なら　なにゆハいでもしかとうけとる

（三―38）

と教えられます。

教祖がひながたを示された目的は、世界中の人に元初まりの真実を伝え、本当の親の存在と親心を教えて、身上や事情の苦しみ悩みから救い上げることにあります。したがって親の心に近づく成人を図ろうとするならば、まず「人をたすける」ことを第一に考える。これがひながたの核心です。

「人をたすける」とは、物質的、また経済的援助が必要な場合もありますが、何より肝心なことは、おつとめに人だすけの祈りを込めることです。そして自分の手の届く範囲ならば、身上を患う人におさづけを取り次ぎ、事情に悩む人の話に耳を傾ける。近年特に増えているのは家族にまつわる事情で、私たちの周囲でたすけの綱を待っている家庭は少なくありません。

おふでさきに、

いまゝでにないたすけをばするからハ　もとをしらさん事にをいてわ

（九―29）

と教えられるように、そうした人々に、自分の行いと言葉で信仰の喜びを伝えると同時に、「八つのほこり」と「十全の守護」の教理を拠り所として、身上事情の元を探りながらたすかる道へ共に歩む。この実践が、ひいては我が身と我が家族を幸せへと導いていただく種になるのです。

刻一刻と近づく百十周年の年を目指して一人一人が教えの喜びを味わい、ひながたを我が心に刻んで、人だすけに一層の飛躍を誓って歩んでいきましょう。

第136回教人資格講習会修了者

（令和５年11月10日付）

伊藤智美（本心実）

10月のおさづけの理拝戴者

川村享二（本栃木）

10月の初席者

酒井利彰（本鯱城）
酒井雄司（本鯱城）
酒井比砂子（本鯱城）
ルゴット・リリアン・バルクマ（本和合）
小名木裕子（本順愛）
伊藤嘉奈子（本山王）
佐藤匠太郎（本海門）
佐藤ヒカル（本海門）
高橋舞（本海門）
石川亜紀（本海門）
蕭伊君（本愛慶心）

本穂分教会二代会長夫人 桑子和子之霊の五年祭

本穂分教会では11月４日、二代会長夫人・桑子和子之霊の五年祭が、同分教会で行われた。

創立101周年記念祭

本築分教会（佐藤幸一郎会長）では、11月３日午前10時より、大教会長夫妻を来賓に迎え、部内教会長ら多数の参拝者が集う中、創立101周年記念祭が盛大に行われた。

おぢばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう

第991期

修養科生大募集

《集合・面接》☆日時…12月23日 午後１時　☆場所…本愛大教会

※12月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

大教会日誌

令和５年10月25日～令和５年11月24日

10月

26日　本部秋季大祭

31日　常任役員会議◇役員会議

11月

1日　入社祭

祭　主・大教会長　扈者・杉村善男、松原悟

指図方・野田正道　賛者・津田豊郎、鈴木真也

◇祭典講話―吉田克義

◇大教会長挨拶

2日　よふき会例会

おつとめ、十二下りてをどり、連絡会

12日　常任役員会議

13日　月次祭

祭　主・大教会長　扈者・大橋進、加藤成幸

指図方・安藤正二郎　賛者・佐藤正二、出口順一郎

◇祭典講話―大教会長

メイクアップ講座（於・華洲舘３階ホール）

講師―佐藤統二郎先生（那美岐大教会所属）

青年会例会

14日　布教実修所

17日　こども食堂ＭＯＧＵ（参加者83人）

16日　むつみ会例会

20日　婦人会例会